自然にやさしい
安心安全な生活環境の構築を目指して

私たちが生活する上で切り離せない「ごみ」。安心・安全で衛生的な暮らしのためには、安定したごみ処理が重要となります。

今回は、本町のごみ処理の現状とより暮らしやすい生活環境の構築について考えるとともに、近年、認知度が高まっているＳＤＧｓの取り組みについて紹介します。

ごみ排出量の現状

社会環境や生活スタイルの変化等により、ごみや産業廃棄物の排出量は増加の一途をたどっています。

日本全体のごみの最終処分場の残余容量は令和４年度末で９，６６６万㎥であり、残余年数は23・４年です。このままごみの排出量が減少しないと、２０４５年頃には国内のごみの埋立地がなくなってしまいます。

このような状況を踏まえ、国や県では環境負荷を減らす循環型社会の実現に取り組んでいます。

本町でも、まちづくりの指針となる第５次小国町総合計画基本計画や第２期小国町地域創生総合戦略において、「自然環境を守り、活かし、共有しながら、生活の質を向上できるまち」を目標とし、ごみの再資源化など環境負荷の少ない生活を推進することを盛り込んでいます。まちづくりの成果指標としても、１人１日当たりのごみ排出量（生活系ごみ）を２０２５年まで４５０ｇにする目標値を設定しています。

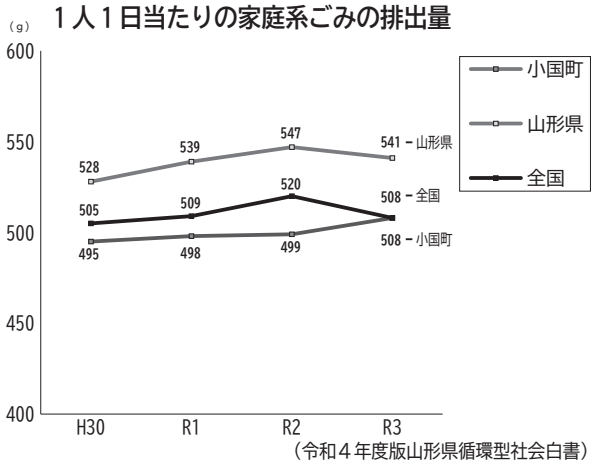
令和４年度時点の本町の１人１日当たりのごみ排出量は５４４ｇであり、目標値に達するまで約１００ｇのごみを削減する必要があります。

また、家庭から出るごみから、資源としてリサイクルされる量を除いた家庭系ごみの１人１日当たりの排出量は、全国や県よりも低い水準で推移していますが、増加傾向が続いていることがわかります。

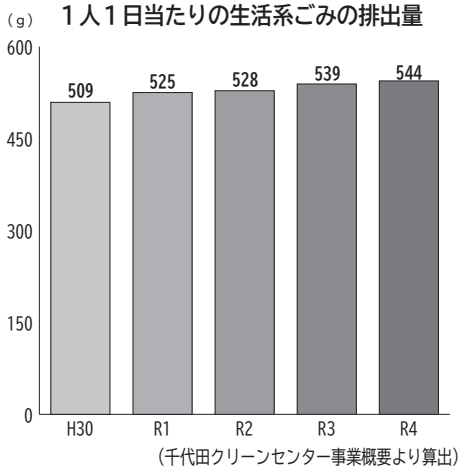
正しい分別を心がけましょう

ごみは正しく分別することで資源として活用できます。

例えば、プラスチック製容器包装やペットボトルは資源ごみとして分別すると、資源としてリサイクルされ、新たな製品として生まれ変わります。古新聞やダンボール、牛乳パックなども古紙として回収されると、パ



（令和４年度版山形県循環型社会白書）



（千代田クリーンセンター事業概要より算出）

ルプとして再資源化されます。
　誤った分別でごみを捨てると、再資源化できるものでもごみとして処分されてしまいます。また、場合によっては大きな事故につながる可能性があり、実際に不燃ごみの誤った分別が原因となった火災事故、爆発事故が発生しています。
　令和４年９月には置賜広域行政事務組合が管理する不燃ごみの処理施設で、ごみの破砕処理中に爆発事故が発生しました。施設の設備や機器類が被害を受け、運転停止したことにより、一時的に処理できない不燃ごみが溜まるという事態に陥りました。また、全国的にスプレー缶の混入が原因と推測されるごみ収集車の車両火災事故も発生しています。資源ごみでも危険物の混入が発生しており、選別作業中の作業員のかたが危険に直面することも起きています。
　このような事故が発生すると、ごみの処理や回収が滞るだけではなく、作業員のかたやごみ処理施設、ごみステーションの周辺住民、住宅等に被害が出る可能性もあります。
　住みやすい生活環境を構築するためには、ごみが滞りなく適正に処理されることが重要です。ごみを出す際には、出し方・分け方を確認し、正しく分別しましょう。

生活環境を守る

　ごみのポイ捨ては景観を損ねるだけではなく、雨等によって河川等に流れ出すと、海洋汚染につながります。
　地域の衛生環境を保持する活動の一環として、本町では毎年、ゴールデンウィーク前に道路一斉清掃を実施しています。これは、平成４年のべにばな国体をきっかけに始まり、コロナ禍で一時中断しましたが、現在も継続して実施されています。
　今年度は４月29日に行われ、子どもから高齢者のかたまで多くのかたがたが早朝から参加し、道路に捨てられたごみを拾いました。

不燃物として出してはいけないもの

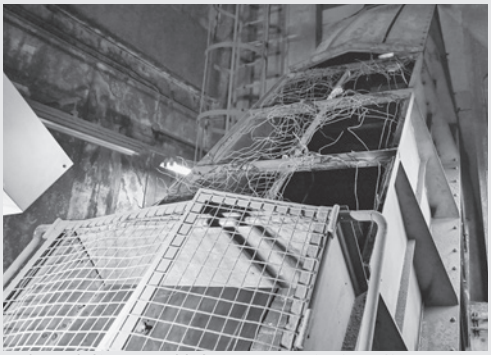
・**スプレー缶、カセットコンロ用ガスボンベ**
　ガスを抜き、穴をあけてから空缶類として捨ててください。

・**充電式電池、モバイルバッテリー、スマートフォン**
　家電量販店などの回収ボックスに持ち込んでください。

※ごみとして出す場合は有害・危険ごみ

・**加熱式たばこ、充電式の電気シェーバー・電動歯ブラシ**
　金属端子部分にセロハンテープ等を貼ってから有害・危険ごみとして捨ててください。

※上記以外の充電式電池が取り外せない機器については、町民課にお問合せください。



▲爆発事故により被害を受けたごみ処理施設の様子
（提供：置賜広域行政事務組合）

ごみの出し方・分け方はこちらから⇓

資源ごみの分別について

　原則、下記のマークがついているもののみが対象です。
※油等の汚れがとれないものは可燃ごみへ

古紙の分別について

・プラスチックやアルミ、ビニールがついている紙やダンボールは古紙として回収できません。
例）お酒が入っている箱、内側がアルミの紙パックなど
・水に濡れてふやけてしまったものや汚れが染み込んでいるものは可燃ごみに出してください。
・プラスチックの注ぎ口がついている紙パックは外してから回収に出してください。

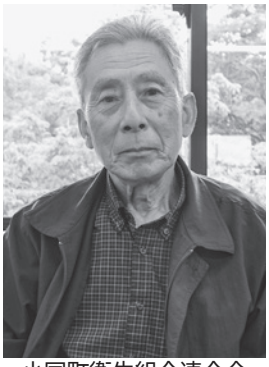
道路一斉清掃を実施している小国町衛生組合連合会は、このほか町中心部の側溝清掃や不法投棄防止のパトロール、ごみステーションの管理等を行っています。同連合会の加藤隆芳会長に町内の衛生環境についてお話をうかがいました。

「道路一斉清掃では、国道沿いの地区でペットボトルや缶など多くのごみが回収されたようですが、以前よりもポイ捨てが少なくなったという地区もありました。一斉清掃開始当初に比べ、マナーが向上していると感じます。

ごみステーションについては、以前はカラスがごみをあさっているといった報告がありましたが、最近はあまり聞かれなくなりました。これは利用しているかたがたにごみ出しのルールを守っていただいている成果だと思います。引き続き、ごみの出し方、分別についてご協力をお願いします。

衛生組合連合会では、ごみステーションや防鳥ネットの機能を向上させるための更新や、新設について補助を出しています。希望する場合は各地区衛生組合長にご相談ください。」

▲多くのかたが参加した道路一斉清掃


小国町衛生組合連合会
加藤隆芳会長

このほか、町ではごみの削減と生活環境を保全する事業にも取り組んでいます。毎年、夏と冬には小型家電や古着の回収を実施しており、回収品はリユース（再使用）やリサイクルされています。また、春と秋には関係機関と協力し、山林等への不法投棄防止のパトロールを実施し、道路脇や山林等に不法に投棄されている廃棄物がないか見回っています。

環境への負荷を考える

環境負荷が少ない生活を実現するため、ＳＤＧｓに取り組む自治体や企業が増えています。

本町でも、令和４年度からフードドライブ事業を実施しています。これは、家庭で余っている食品を食の支援が必要なかたに届けるもので、食品ロス問題と貧困問題を解決に近づける取り組みです。町民の皆さんに提供いただいた食品は、小国町社会福祉協議会などのフードバンク事業を実施している団体に寄付し、必要なかたに届けていただいています。

令和３年から４年度にかけては、地域おこし協力隊の中原隊員が、不用となった衣類を集め、

町内企業の取り組み

クアーズテック合同会社小国事業所では、同事業所職員が駅前やアスモ、あいべ等の町中を歩きながらごみを拾う清掃活動を令和５年から実施しています。今年度は４月23日に、昨年度よりも清掃範囲を広げて実施されました。

活動が始まった経緯について小国事業所の加藤孝則シニアＨＲマネージャーにお話をうかがいました。

「この活動は、４月22日の『国際マザーアース・デー』に合わせ全世界のクアーズテックグループで取り組んでいるクアーズテックアースウィークの一環として昨年度から実施しています。本事業所では清掃活動のほか、ごみを減らすためマイボトルの持参や、エネルギーの使用量を抑える省エネデー、リモートワークの実施など環境に配慮した活動にも取り組んでいます」

無料で提供する「叶水フリーマーケット」を企画しました。これは、不要となった服や防寒着等を必要とする人に届ける取り組みで、廃棄される衣類の削減につながりました。

また、小国町移住者コミュニティつむぐでは、ＳＤＧｓをテーマとした「つむぐマルシェ」を開催しています。出店者や来場者がＳＤＧｓを学び、体験できる場となっており、今年度は６月９日に開催予定です。マルシェではリサイクルショップや自然に配慮した手作り雑貨の出店のほか、エコバックや蜜蝋ラップを作るワークショップも実施されています。また、飲食関係の出店では、マイボトルや食器・カトラリーの持参を推奨し、プラスチック容器等のごみを出さない取り組みがなされています。

日常生活の中で、環境に配慮した選択をすることにより、ごみの削減につなげることができます。買い物の際にエコバッグを使用する、詰め替え容器に入った製品や簡易包装の製品を選ぶなど少しの行動を続けることで、環境への負荷を軽減できるので、ぜひ身近なところから、ごみの削減について考えてみてください。

本町では、これからも安心安全で暮らしやすい生活環境を実現するため、ごみの削減、資源化に取り組むとともに、地域の衛生環境を保全する取り組みを進めてまいります。

■ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）とは

2015年９月の国連サミットで決まった全世界共通の目標です。「誰一人（だれひとり）取り残さない」を理念に、17の目標と169のターゲットが設定され2030年までの達成を目指しています。

目標のなかには「⑫つくる責任つかう責任」「⑭海の豊かさを守ろう」「⑮陸の豊かさも守ろう」といったゴールがあり、これらに取り組むことがごみの削減や資源化にもつながります。

▲不用なものを必要とする人に届ける（つむぐマルシェ）

▲叶水フリーマーケットには多くの衣類が集まった

今年も開催します

Go！フードドライブ

■開催日時・場所
①６月５日㈬～７日㈮　８：30～17：15
　役場２階ロビー（住民窓口担当にお声がけください）
②６月９日㈰　10：00～15：00
　アスモ西側駐車場（つむぐマルシェ会場内）
■問合先　総務企画課企画財政室（☎62-2264）へ

■お持ちいただきたい食品
・インスタント食品（レトルト、フリーズドライ）
・瓶詰・缶詰
・乾物（ふりかけ、お茶漬け、のりなど）など
■受付できないもの
・生鮮食品、アルコール類
・賞味期限の明記がないもの
・賞味期限が３か月を切っているもの
・破損によって中身が出てしまっているもの
・コーヒー豆など、器具が必要なもの